

鈴木化学工業所



鈴木啓之社長

また、ミクロン単位

採用している。性が要求される部位に
着は、ブレーキ油を入
れるタンクなど、信頼
も高める工法の熱板溶
着」。母材の強度を最
高にする「熱板溶
着」。母材の強度を最
も高める工法の熱板溶
着は、ブレーキ油を入
れるタンクなど、信頼
性が要求される部位に
採用している。

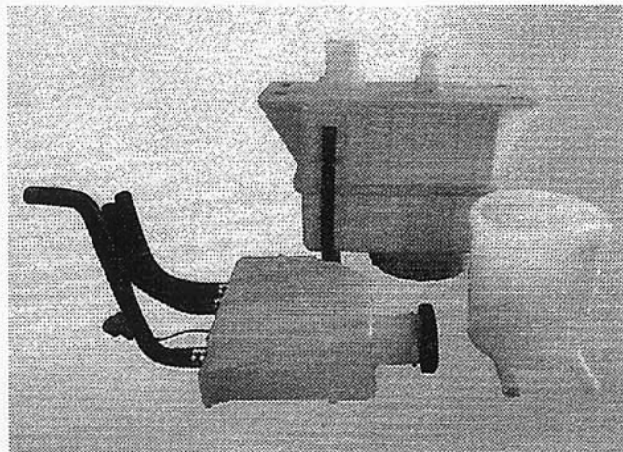
射出成形・溶着加工の鈴木化学工業所は、二・四輪向けプラスチック部品を手がけている。主に車の「走る」「止まる」「曲がる」機能に関わるオイルタンクを製造し、信頼性の高い樹脂溶着技術と高精度の樹脂加工で、保安重要部品の一翼を担っている。今後は電気自動車

愛知ブランド企業



Aichi Quality

2・4輪の安全確保に寄与



ブレーキオイル用タンク(左)など、主に自動車用プラスチック部品を手がけている

樹脂溶着・加工強み 電気自動車に対応へ

の要求にも対応できる。応え、競合他社との差別化を図っている。技術と設備を有する点、別化を図っている。バイオなどの新素材にも強み。設備投資も積一方、電気自動車への要求も高まる。三次元測定器の転換・普及では、大品に着手し「脱・石油」や輪郭形状測定器など、大きな課題を抱える。の流れに備える方針を次々と導入。部品の「電気自動車には、当だ。

進めてい

電気自動車

さらに、環境保護の高まりを受け、静音設計のタンクやガソリンのにおいを吸着するタンクなどの部品製造も強化していく考え。主力取引先である自動車業界は今、まさに「冬の時代」を迎えているが、愛知ブランド取得を契機に「新規開拓にも力を入れていきたい」と、未来を見つめている。(岡崎)

社が関わっている燃料系の部品は必要なくなる。この流れは、無視できない」と、鈴木社長は危機感を募らせる。電気自動車になれば、部品の減り、デザイン自由度が上がる。バッテリーが小さくなれば、小型化も可能になるが「現在、当社の軽量化や原価低減技術をどこにどうにかに向けたのか、検討段階」。要求にも手探りの中、新製品開発の準備を進めている。

<メモ>本社=岡崎市福岡町字下荒追56番地▽社長=鈴木啓之氏▽電話0564・51・9531▽設立=1960年6月▽社員数=140人(パート・人材派遣含む)▽売上高=23億円(2008年9月期)